

課題名：日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際政策研究

氏名：澤田康幸

機関名：東京大学

1. 研究の背景

国内外を問わず貧困問題が深刻化している。日本は「格差社会」となり「孤族」の貧困が社会問題となっており、2011年3月11日に発生した東日本大震災によって、急速に高齢化が進む地域での災害からの復興のあり方が広く議論されている。また、国連中心にミレニアム開発目標が設定され、世界の貧困削減に取り組んできたが「絶対貧困」の問題は根本的に未解決である。

2. 研究の目標

貧困対策のためには、実態把握に基づいた周到な公的扶助政策の設計と実践が不可欠であるが、日本や途上国では世帯や個人に関する実態調査が不十分である。本研究では、「リスクと脆弱性」の概念を柱とした緻密な貧困実態調査を日本と途上国で行い、エビデンス(科学的証拠)に基づいた政策形成のための実践的学際研究を行う。

3. 研究の特色

自然災害などにより世界の人々が貧困に陥る「災害リスク」、貧困層がうつ病・自殺に追い込まれるという「精神健康リスク」、日本とアジアで急速な高齢化が進み、途上国の持続的発展が未だ達成されない状況下において、貧困層が身体的健康悪化の罠に陥るとい「身体健康リスク」という視点から周到な貧困実態調査を実施し、最先端の分析手法による知見を有効な政策の実践へつなげる。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

周到な学術的実態調査に基づいた政策形成のモデルが他分野へ波及する効果、日本と世界の災害実態調査や世界最速で高齢化する日本の実態調査をもとにした政策設計手法を国際公共財として発信するという知的国際貢献効果が期待される。

災害リスク

- ・日本の自然災害
- ・途上国の自然災害
- ・フォーマル・インフォーマルな保険機能

➤ エビデンス(科学的証拠)に基づいた政策形成のための実践的学際研究
 ➤ 「リスクと脆弱性」の概念を柱とした緻密な貧困実態調査

精神健康リスク

- ・日本の自殺実態把握
- ・日本の自殺対策

身体健康リスク

- ・日本の高齢者調査
- ・途上国の障害者調査

